

リバーロキサバンOD錠15mg「JG」の安定性試験(無包装)

1. 試験目的

リバーロキサバンOD錠15mg「JG」を無包装状態で下記条件にて保存し、安定性を確認した。

2. 保存条件

- ・ 温度に対する安定性試験：40±2℃ 3ヵ月〔遮光・気密容器〕
- ・ 湿度に対する安定性試験：25±2℃/75±5%RH 3ヵ月〔遮光・開放〕
- ・ 光に対する安定性試験：120万lx・hr(約4000lx[D65]・12.5日) 25℃/湿度なりゆき〔シャーレ+ラップ〕

3. 試験項目

性状、純度試験(類縁物質)、崩壊性、溶出性、含量、硬度<参考値>

4. 評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる。<安定性の評価基準の項参照>

5. 試験結果

		規格	試験開始時	3ヵ月後
温度	性状	白色～帯黄白色円形の口腔内崩壊錠	白色円形の口腔内崩壊錠	変化なし
	純度試験	個々の類縁物質は0.2%以下 総類縁物質量は0.5%以下	適合	適合
	崩壊性(秒)	1分以内	34(31-37)	33(30-37)
	溶出性(%)	180分間で75%以上	83.3(82.9-83.6)	82.7(82.2-82.9)
	含量(%)	表示量の95.0～105.0% [開始時100%]	101.35 [100]	101.03 [99.7]
	硬度(N)	参考値	43	47
	評価			—
		規格	試験開始時	3ヵ月後
湿度	性状	白色～帯黄白色円形の口腔内崩壊錠	白色円形の口腔内崩壊錠	変化なし
	純度試験	個々の類縁物質は0.2%以下 総類縁物質量は0.5%以下	適合	適合
	崩壊性(秒)	1分以内	34(31-37)	29(27-30)
	溶出性(%)	180分間で75%以上	83.3(82.9-83.6)	83.2(82.8-83.6)
	含量(%)	表示量の95.0～105.0% [開始時100%]	101.35 [100]	99.98 [98.6]
	硬度(N)	参考値	43	26
	評価			—
		規格	試験開始時	120万lx・hr
光	性状	白色～帯黄白色円形の口腔内崩壊錠	白色円形の口腔内崩壊錠	帯黄白色円形の口腔内崩壊錠
	純度試験	個々の類縁物質は0.2%以下 総類縁物質量は0.5%以下	適合	適合
	崩壊性(秒)	1分以内	34(31-37)	39(35-41)
	溶出性(%)	180分間で75%以上	83.3(82.9-83.6)	82.5(81.6-82.9)
	含量(%)	表示量の95.0～105.0% [開始時100%]	101.35 [100]	100.17 [98.8]
	硬度(N)	参考値	43	51
	評価			—

崩壊性・溶出性:平均(最小-最大) 硬度:平均 1N≒0.1kgf

6. 結論

湿度条件において、硬度の低下傾向(規格内)が認められた。また、光条件において性状の変化(規格内)が認められた。

安定性の評価基準

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った。

【性状】

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

【純度試験・崩壊性・溶出性】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【含量】

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【硬度】

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)未満の場合

安定性の評価分類

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。

2024年8月

001